

Money meets the Int

ウォール街はインターネットを、どう評価しているのか？

執筆 エリック・ガワー + 榊山 寛
Eric Gower Masuyama



個人投資家の観点からインターネットを
考える「Money meets the Internet!!」
約3年続いたこの連載も最終回を迎えた。
今回は、家電などを接続する
制御ネットワークで知られる
エシロン社を取り上げる。

本記事は特定企業への投資を勧誘するものではありません。
資産運用は目的を持って自己責任で行ってください。



エリック・ガワー

Eric Gower

投資家、ライター。1961年米国ペンシルバニア生まれ。カリフォルニア大バークレー校卒。主な著書に『日本は金持ち。あなたは貧乏。なぜ?』（毎日新聞社）がある。

最終回
Chapter

10

日用品のシスコシステムズ、 エシロンコーポレーション

家電がネットに つながるとき

サン・マイクロシステムズの共同創業者であり、IT界の重鎮として知られるビル・ジョイは、次のような有名な予言をしている。「遠くない将来、家庭とオフィスにおけるすべての電気製品が、お互いに接続される」と。

今回紹介するエシロン社(NASDAQ: ELON)のCEOであるケン・オシュマンはそれに同意する。「ビル・ジョイ氏が正しいことが、日を追って明らかになってきた。電気製品は相互に、そしてインターネットに接続されるのだ。市場調査会社のIDCは、米国家庭におけるインターネット製品の市場が、2004年までに180億ドル(約2兆2,000億円)に達すると予測する。オシュマンは、まるでライオンのようにその分け前のほとんどを捕らえようとしている。

オシュマンとともにエシロンを創業したのは、アップル社創業時の投資家、マーク・マークラだ。彼らの意図は、もともと「スマートハウス」を作り出すことだった。照明や空調、AV機器がネットワーク化され、イン

ターネット上でリモートに操作できるというものだ。これを実現するために、彼らはロンワークスという製品を開発した。それは、家電をコントロールする製品を誰もが開発できるようにするためのオープンスタンダードOSだ。電気製品の状態モニタリング、情報アップデート、システム診断、省エネなどさまざま

な用途に対応した「コントロールネットワーク」として機能する。使われるのは家庭だけではなく、オフィスビルや工場、乗り物など電気製品が多数量かれているところすべてだ。

ここでいう「コントロールネットワーク」とは何だろうか？窓のブラインドを開閉したり、照明を調光したりというシンプルなものにも

エシロンコーポレーション【ELON】

エシロンは、1988年に設立されたネットワーク関連ハード/ソフトの開発や製造、販売を手がける企業だ。相互運用可能なコントロールネットの国際標準である「ロンワークス」を開発したことで知られる。ロンワークスとは、オフィスや家庭における自動化、産業、輸送、および公共設備分野で使われる、オープンな制御方式のソリューションのことだ。ロンワークス上でアプリケーション開発を行う企業は約5000社に上っており、全世界で導入されている機器は1000万台にも達している。1991年には日本法人も設立されている。



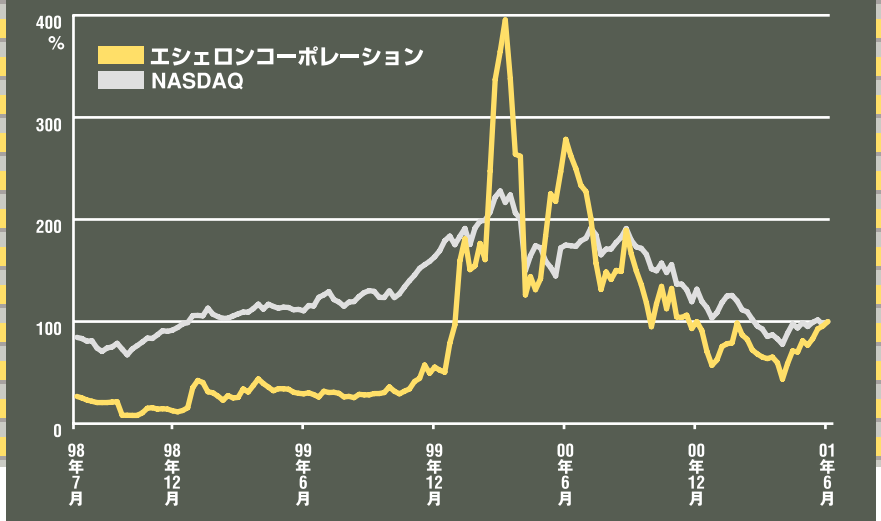
2001年6月8日現在

Data

本社	米国カリフォルニア州
設立	1994年
代表者	M. Kenneth Oshman (Chairman & CEO)
株式取引市場	NASDAQ
Ticker Symbol	ELON
分類	Technology
株価	24.82ドル
時価総額	10億1,553万5,120ドル
発行株数	4091万6000株

www.echelon.com

エシェロンコーポレーションの株価とNASDAQ 指数の騰落率



エシェロンコーポレーション上場日（1998年7月）を「100」として騰落率をグラフにまとめたもの。

なりえるし、ビルのエレベーター群、警備、防火システム、工場における半導体の自動製造ラインなど、とんでもなく複雑にもなりえる（デモサイト [Jump01](#)）。

エシェロンのビジョンと自信に対する大きな1票は、イタリア最大の公益事業法人であるエネル社からのものだった。同社は、イタリア中の電力ネットワークにロンワークスの機器を設置すべく、3億ドル（約360億円）の支払いに同意したのだ。これは、そのアナウンス以前の年は4,900万ドル（約59億円）しか総収入がなかった会社にとっては大成功である。

この設備によってエネル社は、あらゆるメーターを自動的に読むこと、需要を管理すること、電力に問題が起きたときの探知、安全

性の増大など、さまざまな恩恵を受けられる。しかも、エネルが期待しているのは経費節減だけではない。そうした「インテリジェント」な機器管理サービスを、家庭に紹介することで新規ビジネスを創造しようとしているのだ。

[Jump01](#) demo.echelon.com

役員による 自社株購入の意味

る他の銘柄同様、ひどく打ちのめされてきた。2000年3月の高値である111ドルから、2001年4月初旬には9ドルにまで下げてしまった（6月5日現在約25ドル）。この連載で

は役員が自社株を買うこと（英語ではこれをインサイダー売買という）については触れてこなかったが、最近、エシェロンでは300万ドル分の株が役員たちに購入されたことは知っておくべきだろう。役員が自社株を「売る理由」は、非常に多岐にわたる。個人的な現金の必要性、分散化、あまり良くないニュースを知っていること……etc.。しかし、「買う理由」は1つだけだ。その会社のことをもっともよく知っている人々が、自らのリスクで資産を自社株の購入にあてているのだ。

しかし、急成長が織り込み済みのエシェロンの株価は、現在でも決して安いとは言えない。収入は変動しがちで、利益の安定成長を記録したこともない。今日の厳しい経済状

エシェロンに対する見解

BULL

- ・家庭から工場、オフィスビルまでの膨大な潜在需要。
- ・ロンワークスの先行性。

BEAR

- ・すでに成長が織り込み済みの高値。
- ・変動しがちな収入と利益。



BULLは「強気」、BEARは「弱気」を意味する。

Money meets the Internet!!

ウォール街はインターネットを、どう評価しているのか？

エシェロンの業績と株価の推移

		2000年度				2001年度
		3月期(1Q)	6月期(2Q)	9月期(3Q)	12月期(4Q)	3月期(1Q)
業績	売上げ	1,140万	1,270万	1,220万	1,300万	1,260万
	収益	-65万 1,000	-50万 8,000	12万 8,000	111万 5,000	2万 2,000
株価	高値	113.00	77.56	62.31	39.25	25.87
	安値	15.62	21.37	29.00	14.75	13.00

単位：ドル

況の中で、ウォール街が期待する成長をもたらすのは、とても難しいかもしれない。ファンダメンタル的に良い部分は、負債がなく、1株あたりの現金保有は4ドルと高く、利益率は63%といううらやむべき数値という点だ。ここで、シスコシステムズやジュニパーネット

ワーク社が、インターネットの情報トラフィックの爆発的な急増において、最大の受益者になってきた経緯を思い出してみよう。ネットにつながった機器を製造する企業よりも、ネットを「つなげる」企業のほうが、投資のリターンを多く得る可能性が高いのだ。エシェロンは

まさにそこに位置している。現在、建築物のコントロール関連機器を製造するメーカーの60%が、ロンワークスを使った製品を出荷している。エシェロンはその勢いを保ち続けることができれば、コントロールネットワーク界の「ゴリラ」(強大企業)になれるだろう。

この2年を振り返って

歴史が語るバブルの清算と将来

ウォール街がネット関連企業に関する態度を、2年という短い年月の間にどの程度変えてしまったのかは想像しにくいほどだ。この連載を始めた1999年の夏、インター



ネットは、ビジネス上の本格利用とウォール街での人気の両方が、離陸しようとしていた。1999年末には、ドットコムと名前が付いた会社であれば、利益は言うにおよばず、収入や現金に事欠く企業さえも、毎日のように2桁のパーセンテージで株価が上昇するようになっていた。今日、そのビジネスのほとんどは破産しているか、それに近い状況だ。

いったい何が起きたのだろう。はっきりした答えはないが、歴史は、これが決して珍しい現象でないことを教えている。金融の歴史に刻まれた投機的なバブル現象は、17世紀のオランダで起きたチューリップの球根にまでさかのぼることができる。株式市場というのは常に、「将来の」キャッシュフローを生み出す能力に価値を付けるものだ。それゆえ、投資家は革命的な新技術が現れるたびに非常

に興奮してしまう。

しかし、まだまだ私も含めて楽観している人は少なくない。バブル後のリカバリーが、以前の成長よりも早く訪れることを期待しているのだ。米連銀の金利引下げも6度におよんだ。またビジネスにとどまろうと願うハイテク企業にとって、設備のアップグレードはぜいたく品ではなく必須である。1998年から2000年初期まで、いわゆる「ニューエコノミー」を、投資家に対してあれだけ魅力的に見せた進歩は、今も続いている。ただ、誇大広告的な「だまし」がなくなったのだ。

この連載はこれで終了するが、ウォール街がハイテク企業に再び色目を使い始める動きがあれば、またお会いするかもしれない。そのときまで、皆さんの幸運を祈る！

2001年6月、鎌倉にて
Eric Gower



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp